



【編集】
富山国際大学
現代社会学部

富山国際大学

東黒牧ニュース

Toyama University of International Studies



ネパールから東黒牧経由でグローバルな舞台へ

学業優秀で最難関の奨学金も得た留学生 ホシナ・ラズバクさん 4年生（環境デザイン専攻）

ネパールの首都カトマンズ近くで生まれ育った。高校卒業して間もなく、母国を離れて富山に渡った。子どものころから観光やボランティアとして訪れる日本人と接し、日本の大学に進学したいと思いつてきたがホシナさんだが、日本語は全く話せなかった。語学学校で2年間、言葉を学習した後、環境について最新のことを学びたいと、環境デザイン専攻がある富山国際大学を選んだ。

今、「いろいろ学べて成長できた」と大学生活を総括するが、1年生の前期は「混乱していた」。

授業を聞き取ることはできるのだが、ボードに書かれた漢字がわからない。専門的な新しい単語にも遭遇した。それを乗り越えることができたのは、「自分で勉強するしかない」という強い意志と努力、そして「先生方のやさしさだった」という。新しい言葉は聞いたままに覚えておき、授業後に調べた。それでもわからないと、研究室を訪れ、「申し訳ないですが、もう一度、教えてください」と乞うた。嫌な顔をする先生はいなかった。一方で生活では、困った時に夜遅く電話しても必ず出てアドバイスをしてくれたり、必要ならば付き添ってくれたりなど、いつも親身になってくれる国際交流センターの職員に助けられた。



卒論を発表するホシナさん



ゼミでフィールドワークをするホシナさん

日本語能力は上達し、成績も伸びた。3年生からは、学業優秀でコミュニケーション能力が高いことなどを要求され、留学生向け最難関の奨学金とも言われる「ロータリー米山記念奨学金」を授与されている。

卒論は、「黒部市音谷川の流量調査と小水力発電を核とした地域活性化の可能性」。小水力発電は、電気の通っていないネパールの辺境の地で役立つと考えている。

卒業後は、地元の優良企業、大高建設に就職する。卒論で通った地域に根を張っているうえ、海外事業展開を本格化させると聞いているので、これまでに学んだこと、そして、日本語を学ぶ前に修得した英語も活かせると、胸を躍らせる。そして、「いつかは何らかの形で日本とネパールの架け橋になりたい」とも。

語学学校に入学して以来、一度も帰っていなかった母国にようやく、卒業間近に戻る予定だ。学費と生活費すべてをアルバイトと奨学金で賄ってきた頑張り屋のホシナさんが成長した姿を、ご両親はどのように見るのだろうか。

▽この欄では、各方面で活躍する現代社会学部の学生を順次、取り上げていきます。